

春 秋 彩

新入生の皆さんを迎えて

熊本県立大学長

梅林 誠爾



今年も、新鮮な感性と若く伸びゆく力を、熊本県立大学に迎えることができました。新入生の皆さんを、在校生諸君とともに、教職員一同、心から歓迎します。

本学では、学生の皆さんと学長との懇談の機会を設けています。世間では県立大学生はおとなしいと言われていたようですが、そんなことはない、懇談会で出会った県大生はとても元気です。

授業だけでなく「県大農場」での自主的活動を通して、環境という大きな視点から食料や農業を考えている環境共生学部3年生。地域やアジアの国々でフィールド実習を重ね、本学大学院で環境化学の研究を深めようとしている環境共生学部の4年生。e-learningの構築を試みている総合管理学部の3年生。平成16年全国日本学生本因坊決定戦での優勝という快挙を成し遂げ、中国との囲碁文化の交流を考えている総合管理学部の1年生。日本語への学問的関心を深めながら、姉妹校の韓国祥明大学校へ留学し、異なる言語文化との交流も果たしている文学部4年生。学生時代の自由な時間を「2006 世界女性スポーツ会議 くまもと」のための地域と世界をつなぐボランティア活動に当てながら、教員採用に見事に合格した文学部の4年生。

新入生の皆さんが、このように元気な県大生の輪に加わって、その新鮮な感性をさらに豊かにし、伸びゆく力をさらに大きく伸ばされることを、期待しています。県立大学は平成18年4月の大学「法人化」に向けて学内外での検討を行っておりますが、皆さんの元気に応える教育をさらに進めることができます。



学生と学長の懇談会（平成17年2月開催）

Contents

- 1 学長挨拶
- 2 環境共生学研究科に博士課程を開設
- 3 教育充実のための取組み
- 4 現場から学ぶフィールドワーク
- 5 学部紹介
- 6 就職状況
- 7 就職支援
- 8 学生の声・サークル便り
- 9 キャンパス・ニュース
- 10 後援会便り
- 11 後援会の主な事業
- 12 行事予定、お知らせ

環境共生学研究科に博士課程を開設

本学では、環境共生学に関する各分野の専門性をさらに追求し、社会のニーズに対応した教育研究を行うため、平成17年4月大学院博士課程（博士後期課程定員3名）をスタート。

平成11年度に発足した環境共生学部は、自然環境と人間活動との共生の方策を追求し、地域の発展と人間福祉の向上を目指すことを理念としています。この理念の有機的な実現を図るため、学部は1学科制を採用し、次の3専攻としました。

- (1) 生態系の仕組みの解明や環境の保全と持続的な利用について学ぶ生態・環境資源学専攻
- (2) 人と自然にやさしい居住環境や地域文化に根ざした安全で健康な居住空間について学ぶ居住環境学専攻
- (3) 環境と地域を考えた食環境や健康増進と予防を目指す健康環境について学ぶ食・健康環境学専攻

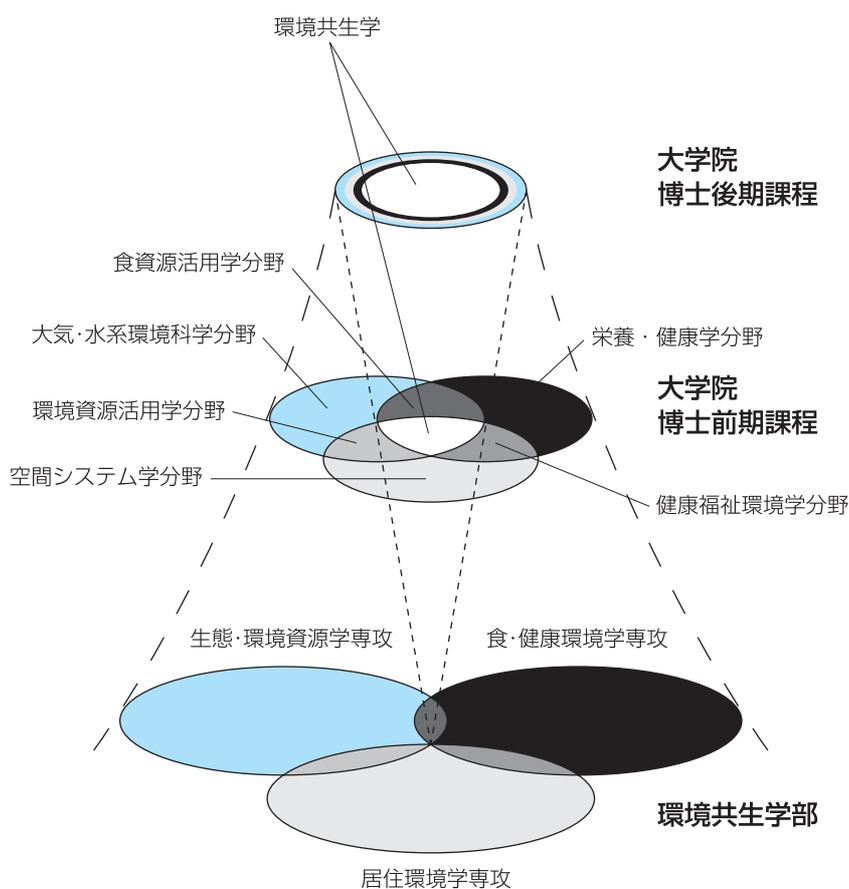
平成15年度には大学院環境共生学研究科修士課程を立ち上げ、学部の各専攻を母体として、6つの研究分野を設定し相互関連を重視しながら「環境共生学」の確立を目指しています。

平成17年度に開設した博士課程においては、修士課程の6分野を基礎にしながらも、環境共生学を究めるためにこの6分野を一つに集約するように教育の再編成を行い、それぞれの立場から環境共生学の確立をめざすことが出来るよう1専攻(環境共生学)としました(右図参照)。

環境共生学研究科の特徴は、次のように表すことが出来ます。

- (1) 学部を基礎に、総合・発展させた教育研究
- (2) フィールドワークを重視した教育研究
- (3) 実践的能力を育成するカリキュラム
- (4) 社会人が入りやすい、昼夜開講制度
- (5) 充実した研究設備

環境共生学の展開



図の下層は基盤となる環境共生学部の3専攻を、その上の中層に大学院博士前期課程の6分野を示している。山の中央部以下から山頂に向かって広がっていく白地の部分は各専攻や各分野の特徴が吸収・融合された環境共生学を示している。この白地の部分は上層部の大学院博士課程に向かうほど拡大し、環境共生学が確立していくことを示している。

教育充実のための取組み

成績優秀者 表彰制度について

成績優秀者の表彰制度は、16年度入学生からのGPA制度の実施に伴って、このポイントが3.5以上で、上位5%以内の学業が優秀な学生を表彰し、学生全体の勉学への意欲を喚起することを目的として、16年度以降入学生を対象とし制定しています。

この第1回の表彰式が、昨年12月2日に行われ、梅林学長から、文学部が日本語日本文学科2名、英語英米文学科3名の計5名、環境共生学部が居住環境学専攻2名、食・健康環境学専攻2名の計4名、総合管理学部が14名、合計で23名の1年生に對して、賞状と記念品が授与されました。



TOEIC®等による英語 科目の単位認定制度について

本学では、学生の英語学習への意欲を高め、全学の英語教育をより充実させるため、16年度入学生から、入学後の各種検定試験等の外部試験の成績により、英語科目の単位として認める制度を開始しました。

外部試験には、①TOEIC®、②TOEFL®、③実用英語技能検定の3種類があり、①と②は点数で、③は合格級で、各学部でそれぞれ認定科目・単位数が定められており、これに該当する学生は、申請により認定(評価は秀)が受けられます。

この3つの外部試験は、一定以上の点数や上位の合格級であれば、就職等でも有利な扱いが受けられる試験ですので、学生の積極的なチャレンジを期待しています。

CALL(コンピュータ支援 語学学習)システムについて

本学では、全学の英語教育をより充実させるため、新CALLシステムを外国語教育センター内の2室に導入しました。新CALLシステム(ソフト)の特徴は、授業での使用が可能となったこと、学生は各自の到達度に応じた学習が可能であるなどで、現在全国100を超える大学で使用され、評価は高いものです。

17年度からは、情報処理実習室での利用も可能となり、教養英語での使用を中心に本格的な運用が始まります。



現場から学ぶフィールドワーク!

目的

学習テーマとなる素材を地域のフィールドに求めることで、学生の現実的課題や地域課題に対する関心の向上を図るとともに、課題の発見及び解決のための実践的な能力を養成する。

文学部—文化財を調査研究し、地域での活用を探る—

県内外の行政機関・文化施設等との連携のもと、身近に存在する文学遺産が“今”とどのように結びついているのか、また、教室で学んだ成果をどのように地域に還元していくべきなのか、について真剣に考察し、議論を戦わせました。

- ・肥後古代の森（菊水・山鹿・鹿央地区）を巡る（菊池川流域にある古代遺跡を視察し、その観光資源としての課題を整理・分析）
- ・天草・本渡方面の文学・キリシタン関係の史跡を巡る
- ・島原市肥前松平文庫所蔵の古典籍に触れる



環境共生学部—現場での体験、調査を重視し、実証的な教育—

自然環境と人間活動の現状を現場で把握し、その現状について調査・分析を行い、環境共生にかかわる諸問題への実証的・科学的なアプローチ手法を学びました。

- ・熊本湧水（環境測定の基礎的技術と測定データの取りまとめ方法を習得）
- ・矢部町の農林業の体験と地域交流（農林家に分宿し、山村・農林業の現状を把握）
- ・食の安全性と化学物質（資源の再利用事業者を見学し、環境と共存する社会を考察）



総合管理学部—地域の諸課題の発見・解決を実践—

地域におけるアドミニストレーションの実態を把握するために、パブリック系、ビジネス系、情報系の3コース毎に、テーマ及び視察地を設定しました。学生自身が、事前学習と現地の調査を通して、地域の現状を捉え、その経験から課題を抽出し、主体的に問題を考察した上で、その成果を報告書にまとめあげました。

- ・「森林の郷農林業げんき特区」視察（球磨郡あさぎり町）
- ・九州新幹線開通に伴う沿線市町村の商店街への影響調査（八代市、水俣市、人吉市）
- ・企業情報システムのあり方調査（トヨタ自動車九州(株)、鳥栖プレミアムアウトレット）



受託調査の事例紹介

総合管理学部 助教授 小泉和重



本学では、平成15年度から市町村の委託を受け、学生が地域の現状を学び、地域の課題解決を支援する受託調査事業を実施しています。平成16年度は、我がゼミの学生が、鹿本町（新山鹿市）の「町の三大交流拠点の連携による中心市街地の活性化」について調査を行いました。

この調査の目的は、鹿本町を中心とした県北観光の新たな方向性を探るとともに、これを地域商店街の活性化に結び付けようというものです。鹿本町で2泊3日の合宿を行い、観光施設の利用調査や新たな観光資源の発掘アンケートを行いました。

「百聞は一見に如かず」の言葉があるように、地域社会の抱える問題や住民のまちづくりに対する熱い思いは、現場で多くの住民の方たちに接しなければわかりません。学生達が自ら足を運び、住民の方の様々な声に耳を傾けることで、多くのことを学びました。

「地域を知り、地域に学ぶ」ことが、将来の糧になることを期待しています。



文学部長
元吉 瑞枝

文学部は、本学の3学部の中で唯一、旧熊本女子大学以来の長い歴史をもつ学部です。文学部で学ぶ対象も、言葉や文学や文化を通して人間とのかかわりについて考える、古くからある学問ですが、同時に、価値観が多様化し異なった文化が共存しなければならぬこの時代にどのように生きていくかというきわめて現代的な問題をやらんだ学問なのです。それは、人間の土台を形作る古くて新しいテーマといつてよいでしょう。文学部では、それに対応する広い視野や方法を身につけると共に、日本語や英語をはじめとする外国語の高い言語能力や表現力を養成することを目指しています。

また学部の構成においても、日本語日本文学科と英語英米文学科という伝統ある2つの学科を柱とすると共に、88年に他大学に先駆けて設置した日本語教育課程や、98年に両学科内に設置した総合文化コース、更には多数の学部共通科目等によって、多様化する学生の志向にも対応し得る体制をめざしてきました。それと共に既存の2学科においても、これまで蓄積してきたよい面を生かしつつ、時代の変化と学生の志向にも対応し得る工夫

と努力を重ねてきました。

日本語日本文学科では、専門の日本語学や日本文学を学ぶことと並んで、近年では教育と研究の両面において地域との関わりを重視し、授業や公開講演会で、熊本の文化人や芸能人を講師として招いたり、フィールドワークや文学散歩(学科主催の課外授業)を通して地域にゆかりのある文学への関心を喚起しています。

英語英米文学科では、英文学、米文学、英語学の各分野を深く学ぶと共に、



全分野を通して国際社会の中で生かせる本格的な英語運用能力の育成を目指しています。なお両学科に設置されている総合文化コースでは、英語以外の外国語や文学、文化、人文系の科目が多数用意され、学生の多様な関心や興味に応えています。



また同様に両学科の学生に開かれている日本語教育課程は、外国人に日本語を教える教師を養成する課程で、毎年約20名の学生が、市内の小学校のほかに、韓国、中国、タイの大

学で教育実習を行って交流を深めています。

以上が文学部の現状の概要ですが、今後どのような人文的教養、どのような文学部が求められているかについて、真剣な模索を行っています。

そのような中、昨年11月26日に市民フォーラム「人文知の未来」を開催し、学習院大学文学部の吉田敦彦教授を基調講演者として、また熊本日日新聞社の松尾正一氏、くまもと県民交流館館長の緒方洋子氏をパネリストとして迎え、学生や教員、市民の参加を得て討議が行われました。今後とも学内外の声

を聞きながら、よりよい文学部をめざして努力していきたいと思えます。



文学部のトピック



小雑誌『文彩』も刊行

文学部における教育や研究の一端を外部に広く紹介するため、教員約10名の日頃の活動内容やエッセイなどを綴った小雑誌『文彩』を3月に発行しました。サイズはB5版の約70ページで1千部を発行し、書店販売は無く、学校関係者や各高校、教育関係者などへ配布しています。今後、時期は未定ですが、毎年発行していきます。

●就職までのタイムスケジュール●

- 1年** 4月 学年オリエンテーション(講演会)
将来の進路を意識した、今後のキャンパスライフの過ごし方を説明します。
- 2年** 4月 学年オリエンテーション(講演会)
就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
- 7月 公務員ガイダンス
公務員を目指す2年生へ、公務員の種類と勉強方法について説明します。
- 8月～9月 夏季インターンシップ
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立てます。
- 2月～3月 春季インターンシップ
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立てます。
- 3年** 4月 学年オリエンテーション(講演会)
就職に対する意識を高めるために、就職講演会を実施します。
- 7月 就職プレガイダンス
適職診断プログラムの実施、就職活動テキストの配付等の他、これから就職活動をはじめに当たっての心構えをガイダンスします。
- 7月 公務員ガイダンス
公務員を目指す3年生へ、公務員の種類と勉強方法について説明します。
- 8月～9月 夏季インターンシップ
民間企業や地方自治体で実際に仕事を体験し、将来の進路を考えるのに役立てます。
- 10月 就職ガイダンス
10月以降に実施する就職セミナーの説明や、就職に対する意識を高める講演等を行います。
- 10月～12月 就職セミナー(スタート編)
週に1度のペースでテーマの異なるセミナーを実施します。
- 12月 公務員合宿
公務員講座受講生の2、3年生を対象に、学外で1泊2日の集中講義・面接対策等を行います。
- 1月 就職セミナー(実践編)
講演会の他、内定者による就職活動発表会等、学生の要望に添った内容の支援を企画します。
- 2月 就職セミナー(直前編)
就職活動の直前対策として、1週間集中して実践に即したイベントを行います。企業説明会や公務員説明会、模擬集団面接(討論)、最新情報ガイダンス、内定者(合格者)発表会、受験相談会等を無料で受講できます。
- 2月～3月 福岡地区合同企業説明会バス運行
福岡地区で行われる合同企業説明会に大学からバスを運行します。
- 4年** 4月 教員採用説明会
学内企業説明会
随時 模擬面接・エントリーシート添削・カウンセリング等
採用情報の提供

インターンシップ発表会

昨年10月14日、本学大講義室で、学長をはじめとする教職員、受入企業の人事担当者、学生約100名の参加を得てインターンシップ発表会を開催しました。

本学では、夏休み期間中の8、9月にインターンシップを実施しており、今年度は民間企業31社、市町村10団体に2、3年次を中心に117名を派遣しました。実習期間は5日間程度の短いものですが、事前のビジネスマナー研修、受入先への事前連絡、研修後の礼状送付、事後研修としてのグループディスカッション、レポート提出等の全過程を通じて、それぞれの学生にとっては苦勞しながらも多くの成果が得られたものと思われま。

この発表会では、その総仕上げとして上江洲祥子さん(文学部4年・湖東カレッジ)、藤野加奈さん(総合管理学部3年・熊本県)、鈴木俊也さん(総合管理学部3年・熊本放送)、山下雅史さん(総合管理学部3年・八代市)、田上翠さん(総合管理学部3年・熊本放送)の5人が成果をプレゼンテーションしました。続いて、学生課から「インターンシップの今年度の状況」について説明し、受入企業を代表して財団法人化学及血清療法研究所人事課長甲斐修様から学生へのメッセージをいただきました。さらにグループディスカッションの発表、自由討議を行い約2時間の発表会を閉会しました。

研修生にとってはインターンシップの成果を早い時期に振り返って、その後の学生生活に活かしていくこと、プレゼンテーションの経験を積むこと、その他の学生にとってはインターンシップの情報を得ること、教職員にとってはインターンシップの実態を知り学生の指導や今後のインターンシップの改善に活かしていくことといった意味で、大変貴重な機会となりました。

インターンシップは、平成17年度から単位化を一部導入するなど、今後重要性はますます増していきます。発表会についてもインターンシップ成果を増進するものとして、さらに多くの関係者に参加していただけるよう工夫していきたいと考えています。



就職センター

就職情報提供と、きめ細かな就職指導・親身な就職相談を行なっています。

学生の就職情報収集の場として利用できるのが、第一大会館内に設けられた就職センターです。県内外の企業からの求人票や就職情報誌、業種別に分類した約3,000社の企業ファイル、先輩の受験報告書、企業別卒業生名簿など、就職に関するいろいろな資料が揃っています。

ここでは就職に関する資料や書籍などの閲覧ができるほか、書籍やビデオテープの貸し出しを受けられます。

また、二人の専任の就職アドバイザーが常駐して、学生の就職相談や指導にあたっています。



就職活動の主役はもちろん「あなた自身」です。

就職センターでは、経験豊かな就職アドバイザーが進路相談から企業情報の収集の仕方、自己PRおよび志望動機を中心とした履歴書の書き方、受験する企業に焦点を合わせた面接や入退室のマナーに至るまで、親身になり徹底指導を行なっています。

就職センターをよく利用する学生ほど、内定も早いようです。早い時期から就職センターを積極的に活用してください。



就職アドバイザー
近藤 俊哉



就職アドバイザー
前田 勝

● 就職センター ●

相談時間：月曜日～金曜日 午前10時から午後5時まで（昼休みを除く）

※時間外でも電子メールで相談を受け付けています。E-mail:gakusei@pu-kumamoto.ac.jp

卒業生からのメッセージ



文学部
(平成17年3月卒業)

青木早矢香 さん
全日本空輸(株)入社

客室乗務員になりたい、その思いを抱き入学したことを覚えています。夢であり憧れでもあった職業に就くことができた今、信じられない気持ちと努力して本当に良かったという気持ち、そして私の「客室乗務員になる」という目標達成のために、支えてくださった多くの方々に、感謝の気持ちで一杯です。

「なれるわけがない」、そう思い、何度も諦めようと思いました。自分に自信がなく、手の届かない、所詮夢にしかすぎないものだと思いついていました。ただ一つ、心に決めていたことは、「自分の可能性に限界があると決めつけたくはない」ということでした。やってみないのに、できないとは思いたくない、努力をできる限り続けられれば、先が見えてくるはずだと思い、目の前にあることから一つ一つ行動に移したことが、学生生活の中で自己成長につながったと思います。

失敗を繰り返しながら、努力が結果として出た今、夢を目標にかえ、達成するためには突き進んで来て本当に良かったと感じます。挫折しても、自分の可能性を信じ努力し続ける、そして周りの方々へ感謝の気持ちを忘れない、心に芯のある客室乗務員になります。



総合管理学部
(平成17年3月卒業)

本田めぐみ さん
明治製菓(株)入社

四年前、将来の目標が決まっていなかった私は、様々なことを広く学ぶことのできる、総合管理学部を選び進学しました。

そして三回生になるころ、広告・マスコミ系という自分の興味のある分野を見つけたことができました。そこで広告について学べるゼミに入り、就職支援講座のマスコミ講座も受講しました。この講座ではテレビ局や広告代理店から講師を招き、教えていただくのですが、講座が終わりでもご指導して下さる講師の方もいらつしゃり、就職活動中は大変お世話になりました。

私の就職活動はこのマスコミ講座の受講をきっかけに大きく変わったように思います。それは同じ目標を持つ仲間ができたことで意識も高まり、早い時期から就職活動に取り組むことができたからです。

実際、就職活動を通して一番感じたことは、「受け身のままでは何もできない」ということでした。大学の方から就職ガイダンスなど様々な支援をしていただけますが、それに出席するだけでなく、説明会に参加したり、OBOG訪問をしたり、就職センターに足を運んだりなど、どれだけ自分から行動できるかが就職活動成功の鍵ではないかと思えます。

四月から私は社会人として新たな道に進みます。何もわからないところからのスタートですが、精一杯努力して、一日も早く周りに認めてもらえるように頑張ります。今、就職活動中の三回生のみなさんも不安は大いだと思いますが頑張ってください。応援しています。

学生の声



日・韓共同未来プロジェクト

文化芸術代表青年交流事業に参加して

総合管理学部3年

桐谷 馨さん



2004年の8月下旬、私は韓国文化観光部が主催する日・韓共同未来プロジェクト文化芸術代表青年交流事業に日本代表として参加しました。5つの文化芸術分野（映画、音楽、ダンス、ファッションデザイン、アニメーション）で活動する青年同士の分野別交流プロジェクトには日・韓双方から5人ずつの青年が参加し、ソウル市内の野外ステージで共同制作を発表しました。アニメーション分野で参加した私は日韓の友人とともにアニメーションの編集と声優に挑戦し、バックステージのデザインを担当しました。4泊5日の期間中には韓国の友人宅にホームステイしたり、一緒に観光したり、限られた時間の中で同じ目標を持ち、ともに生活した私たちは今では全ての枠を越えたかけがえない友人です。それだけに別れは辛く、「またね!」「トーポジャ!」とお互いの国の言葉で再会を誓いました。再会はずいぶん韓国語で。

2004年の8月下旬、私は韓国文化観光部が主催する日・韓共同未来プロジェクト文化芸術代表青年交流事業に日本代表として参加しました。5つの文化芸術分野（映画、音楽、ダンス、ファッションデザイン、アニメーション）で活動する青年同士の分野別交流プロジェクトには日・韓双方から5人ずつの青年が参加し、ソウル市内の野外ステージで共同制作を発表しました。アニメーション分野で参加した私は日韓の友人とともにアニメーションの編集と声優に挑戦し、バックステージのデザインを担当しました。4泊5日の期間中には韓国の友人宅にホームステイしたり、一緒に観光したり、限られた時間の中で同じ目標を持ち、ともに生活した私たちは今では全ての枠を越えたかけがえない友人です。それだけに別れは辛く、「またね!」「トーポジャ!」とお互いの国の言葉で再会を誓いました。再会はずいぶん韓国語で。



2004年の8月下旬、私は韓国文化観光部が主催する日・韓共同未来プロジェクト文化芸術代表青年交流事業に日本代表として参加しました。5つの文化芸術分野（映画、音楽、ダンス、ファッションデザイン、アニメーション）で活動する青年同士の分野別交流プロジェクトには日・韓双方から5人ずつの青年が参加し、ソウル市内の野外ステージで共同制作を発表しました。アニメーション分野で参加した私は日韓の友人とともにアニメーションの編集と声優に挑戦し、バックステージのデザインを担当しました。4泊5日の期間中には韓国の友人宅にホームステイしたり、一緒に観光したり、限られた時間の中で同じ目標を持ち、ともに生活した私たちは今では全ての枠を越えたかけがえない友人です。それだけに別れは辛く、「またね!」「トーポジャ!」とお互いの国の言葉で再会を誓いました。再会はずいぶん韓国語で。

スペシャルオリンピックス(SO) トーチランに参加して

総合管理学部3年

小西 貴博さん



今冬、知的発達障害のあるアスリートによる世界大会、SOが長野で開催されました。SO世界大会を一人でも多くの方に知って頂き、盛り上げて頂くためにアスリートとボランティアが聖火を全国各地へ繋げる「トーチラン」。先日、私はこのトーチランに参加しました。

このトーチランは、コースの調整や広報活動、場所や時間の調整といった事前準備から、当日の伴走や安全確認、片付けに至るまで、全てがボランティアで運営され、多くの方々の協力と努力により、盛り上りを見せ、無事に成功を収めることができました。

スポーツは人種、国籍、障害といった全ての枠が省かれ、人間本来の交流を可能にしてくれます。今後、世界がスペシャルオリンピックスを通して、知的発達障害への理解を深め、障害のある方も自然に受け入れられるような誰にでも開かれた、バリアフリー社会の確立へと繋がって欲しいと思います。

そして、バリアフリー社会の一員としてこれからもボランティア活動に意欲的に参加し、助け合いという人間関係の中で、困っている人、助けの必要な人に少しでも力になれる、役に立てる存在になりたいと思います。



サークル便り

野球部

「チームの輪」



野球部は少人数ですが和気藹々としており、現在は全日本選手権大会出場を目指して練習しています。

今年の春季九州地区大学軟式野球リーグ戦では4勝2敗でしたが全日本選手権を賭けた決勝トーナメントでは1回戦敗退でした。この敗戦の後、チームはバラバラになりました。しかし、それとともにこの敗戦がチームを大きく成長させたのも事実です。自分達に足りなかったモノは何なのか、これからどうすれば良いのか、と一人ひとりが自分を見つめ直すようになりました。そしてなにより、チームワークがより強固なものになっていきました。そうして臨んだ秋季リーグ戦では「全員野球」で全勝優勝という成績を修めることができました。その後、滋賀県で行われた西日本大学軟式野球選手権大会ではベスト8まで勝ち進むことができました。これも全員一丸で掴んだ結果だと思えます。今後は高い目標に向かってさらなる飛躍をしていきたいと思っています。

総合管理学部 3年
部長 野中 隆二さん



今年の春季九州地区大学軟式野球リーグ戦では4勝2敗でしたが全日本選手権を賭けた決勝トーナメントでは1回戦敗退でした。この敗戦の後、チームはバラバラになりました。しかし、それとともにこの敗戦がチームを大きく成長させたのも事実です。自分達に足りなかったモノは何なのか、これからどうすれば良いのか、と一人ひとりが自分を見つめ直すようになりました。そしてなにより、チームワークがより強固なものになっていきました。そうして臨んだ秋季リーグ戦では「全員野球」で全勝優勝という成績を修めることができました。その後、滋賀県で行われた西日本大学軟式野球選手権大会ではベスト8まで勝ち進むことができました。これも全員一丸で掴んだ結果だと思えます。今後は高い目標に向かってさらなる飛躍をしていきたいと思っています。

総合管理学部・情報系の学生たちによる作品コンテスト

情報系の専門演習では、情報化社会へのパスポートであるITへの導入教育として、約100名の2年生が4つの創造的なプロジェクトに挑みます。ビジネス書作成・ホームページ構築・アニメーションデザイン・ビデオ制作からなるプロジェクトは、IT活用はもちろん、数名のグループによるコラボレーション(協同協調作業)で進められ、コミュニケーション技術の訓練、そして人のネットワークを広げる意図も含まれています。この作品のコンテストは、学生たちの創造とコラボレーションの成果発表の場です。限られた時間で最新のコンピュータと情報系全教員による支援体制のもと、創り上げられた意欲的な作品が紹介され、それら作品の中から学生と教員により優秀賞と特別賞が選ばれました。プロジェクトとコンテストに対して、学生から「難しいけど面白い」「満足している」「協同作業は楽しい」などの意見が数多く寄せられ、IT能力向上への第一歩として十分な成果を得た演習でした。



留学生交流会

12月15日に留学生交流会を開催しました。留学生16名に、学長を初めとした教職員、一般学生を合わせて60人が参加し、マンドリン部の演奏の後、留学生との歓談やゲームを楽しみました。

現在、留学生数は、29人(約70人に1人)になりキャンパス内でも留学生の姿を見かける機会が増えました。



授業や生活などで困っている留学生へのちょっとした心遣いが、交流のきっかけとなります。あなたも、留学生との交流を通じて、外国の文化に触れてみませんか？

環境共生学研究所生 技術士補(環境)に合格!

環境共生学研究所生(修士課程)から、多くの「環境部門」技術士一次試験(技術士補)合格者が誕生しました。この一次試験には専門分野の枠を超えた幅広い環境技術の知識が求められており、本学が取り組む、広く、総合的な環境教育が実を結んだ結果だと思えます。

技術士補は、技術士となるのに必要な技能を修習するため、就職においても企業から求められる重要な資格です。是非とも環境共生学部の学生さんは、卒業を機に挑戦されてはいかがでしょうか？

大学院環境共生学研究所 野見山 桂
(平成16年「環境部門」技術士一次試験(技術士補)合格)

公開講演会

平成16年10月から平成17年1月にかけて、熊本県立大学公開講演会を開催しました。国内から優れた研究者や専門家を講師としてお招きし、本学の教育や関連性のあるテーマについて講演を行いました。本講演会は、一般の方にも公開しており、多くの方に御出席いただきました。

開催期日	テーマ	講師	内容	参加人数
H16.10.25	生産者と消費者を結ぶ新しい農業生産システム	宮田喜代志 氏 (熊本市民食農応援団運営委員)	今後の農業生産のあり方と食料消費のあり方を考察し、生産者と消費者の関わり方を提言	82名
H16.10.28	講談の中の幽斎・清正 一話芸をとおして学ぶ新 熊本学一	旭堂南海 氏 (上方講談師)	上方講談師による細川幽斎と加藤清正に関連する講談の口演	150名
H17. 1.29	化学物質と食の安全 「食卓の向こう側」取材 から得たもの	松井三郎 氏 (京都大学大学院 教授) 重岡美穂 氏 (西日本新聞社編集局編集 企画委員会)	化学物質と食環境をめぐるリスクコミュニケーションの進め方及び新聞取材をとおして得た健康を脅かす日本の食の現状と食の課題について講演	210名

後援会便り

後援会とは、

- 本学在学生の父母またはこれに準ずる方を会員として組織されています。
- 大学の教育事業を後援し、大学と家庭及び社会との協力によって、大学教育の成果をあげることを目的としています。

後援会の事業について…

事業としては、就職意識啓発・公務員試験対策・各種資格取得講座・適職診断やサークル活動支援、国際交流・留学支援、語学力向上支援（TOEIC[®]学内試験等）、パソコン・コピー機・図書の整備、学生の自主研究助成等を実施し、学生生活全般を支援しています。

後援会の予算は…

毎年度約4千万円の予算を執行していますが、収入の約8割を会員の方々の会費で賄っています。より多くの保護者の方々に会員になっていただくことによって、より充実した事業の実施につながります。

入会・会費納入について…

新入生に関しては、本学合格通知の際及び入学の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。加入特典が大きいので、保護者の皆様には、是非ともご加入頂きますようお願いいたします。

なお、2年次以上であっても、在学中であれば随時入会を受付けておりますので、お気軽にご相談ください。

会員の皆様へ…

例年、6月上旬の土曜日に、本学において後援会総会を開催し、前年度の事業報告・決算、当年度の予算・事業計画について会員である皆様に審議していただきます。

平成16年度は総会終了後、各学部毎に、学部の活動や就職をテーマとした教員と後援会会員による懇談会を実施し、盛んな意見交換が行われました。

平成17年度の総会については、5月頃ご案内致します。会員の皆様の御出席をお待ちしています。

平成16年度事業の新たな動き…●自主研究推進助成事業●

学生の自主的な共同研究活動に対し、後援会から助成金を支給する制度です。

平成16年度は以下の5グループに助成しました。

平成17年4月に成果発表会を行います。（詳細は後日学内に掲示します。）学生がグループ内でスケジュールを調整し苦勞しながら研究しました。

平成17年度は、予算枠を拡大する予定です。

グループ構成	参加者数	研究課題	内容
環境共生学部 2～3年生	8名	県立大のゴミ収集システム改善のための調査・提案	本学のゴミ収集システムを調査。又、全国の先進大学のゴミ処理法を調査し、本学に適したゴミ収集システムを提案。
環境共生学部 2～3年生	7名	県立大学周辺のリサイクルショップマップの作成	本学周辺のリサイクルショップを評価し紹介するマップを作成。新入生や在學生に配布。
総合管理学部 3年生	7名	県大生のためのFAQサイトの構築	本学ホームページにFAQ（頻繁に尋ねられる質問の略）サイトを作成し、利便性の向上を図る。
植物資源利用研究会(サークル) 所属の1～3年生	38名	生産する視点からの食・農・環境に関する情報発信	食・農・環境について、アンケート調査や生産者との意見交換を行い、新たな活動指針を提案。
総合管理学部 2～3年生	12名	地域の観光情報ウェブサイトの作成	阿蘇垂玉温泉周辺のホームページのコンテンツを作成。

● 後援会事務局 熊本県立大学内 中島（内線237）・上杉（内線204） ●

後援会の主な事業

◎就職対策事業◎



●公務員講座受講生

総合管理学部総合管理学科
平成17年3月卒業

本田 貴子さん
(熊本県入庁)

直接先生に質問できる講義が特にためになりました。2次試験対策もとても実践的でした。学生課の方からの面接や、先生からの討論・論文の指導など何度も繰り返していただき力がついたと思います。公務員予備校に通うより、格安に受講できました。

1・2年次向け就職ガイダンス

意識啓発につながる講演や就職適性テストを無料で受けることができます。

3・4年次向け就職対策

大学で実施する学内セミナー、各種の就職支援事業の経費を後援会から支出しています。

公務員講座・資格取得講座

学生が良質な講座を低料金で受講できるよう経費の一部を助成しています。

講座受講・資格取得支援

就職につながる資格を取得した学生に経費の一部を助成します。

コピー機の設置

学生が学業のために日常的に利用するコピー機のリース費用を支出しています。

パソコンのリース

学生への貸し出し用としてノートパソコン24台をリースし、配備しています。

図書の整備

図書館の本を購入します。リクエストがあれば、図書館に申し出てください。

◎学生活動支援事業◎



●サークル助成金

総合管理学部総合管理学科
3年次

山崎 拓哉さん
吹奏楽部部長

高額な楽器は自分たちの部費だけでは購入出来ないため助かっています。少人数で活動していますが、他大学との交流もあり、グランメッセ等から出演依頼もありました。卒業式・入学式でも毎年大学から頼りにされています。

◎国際化推進事業◎



●海外留学研修助成金

(モンタナ州立大学 ビリングス校へ留学)
文学部英語英米文学科
平成17年3月卒業

池上 大介さん
(FM中九州 入社)

交換留学のいいところは、直接大学の授業に入れるところ。個人留学するよりも時間も金銭的にも節約出来る。お勧めです。モンタナに留学したおかげで、FM中九州とご縁がありました。留学経験を生かして仕事にも頑張ります。

海外留学助成

海外留学や研修を行った学生に経費の一部を助成しています。

英語圏留学対策講座

英語圏の国に留学する際に必要なTOEFL対策を行います。

研修団受入

姉妹提携大学との交流事業に関する経費を支出しています。

月	日	内 容
4月	6日	入学式(於:県立劇場)
	7日	新入生オリエンテーション(~8日)
	7日	授業公開講座受講手続き(社会人)(~8日)
	上旬	卒業年次健康診断
	上旬	2~4年次授業料納付書送付
	11日	在学生オリエンテーション
	12日	授業開始
	14日	日本学生支援機構奨学金・授業料減免説明会
	下旬	1年次授業料納付書配布
30日	授業料第1期分納入期限	
5月	中・下旬	卒業年次以外健康診断
	下旬	モンタナ州立大学ピリングス校短期研修団受入(10日間程度)
6月	11日	TOEIC®団体特別試験(第1回)(予定)
	中旬	後援会評議会及び総会
	下旬	韓国祥明大校短期研修団受入(~7月上旬、10日間程度)
7月	26日	前期試験(~8月5日)
8月	1日	授業公開講座(後期)受講者募集(~19日)
	上旬	オープンキャンパス
	上旬	モンタナ州立大学ピリングス校短期研修団派遣(3週間程度)
	11日	夏季休業(~9月30日)
9月	中旬	インターンシップ派遣(~9月中旬、各5日間程度)
	上旬	大学院(環境共生学研究所)入学試験(秋季募集)
	中旬	韓国祥明大校短期研修団派遣(10日間程度)
	中旬	自己推薦型入試(総合管理学部)
30日	授業料第2期分納入期限	

*期日は変更となる可能性がありますので、学内掲示板により確認するか、担当課までお問い合わせ下さい。

ご意見・感想募集

本誌についてのご意見・ご感想を下記にお寄せください。みなさまのお声を参考に、今後の学報編集を行っていきたくと考えておりますのでよろしく願いいたします。

〒862-8502(住所記載不要)
熊本県立大学地域交流センター「春秋彩」担当行
FAX: 096-384-6765
E-mail: souki@pu-kumamoto.ac.jp

■春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の詩書「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。



熊本県立大学

発行: 熊本県立大学
〒862-8502 熊本市月出3丁目1番100号
TEL. 096(383)2929(代) FAX. 096(384)6765
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

16 総 熊県大

③ 006

2100

古紙配合率100%用紙を使用しています

● お知らせ ●

● 附属図書館からのお知らせ

図書館では下記のサービスを提供しています。研究や学習にフルにご利用いただきますようお願いいたします。

■ 在学生に対するサービス内容等

- ・館内閲覧、貸出サービス(2週間以内、5冊以内)
- ・視聴覚コーナーでのビデオ・DVD等の視聴利用
- ・相互利用サービス(他大学図書館からの図書の貸出・複写利用)
- ・1階パソコン端末による雑誌記事や朝日新聞記事等の検索等
- ・CD-ROM利用(辞書、新聞記事等)
- ・新刊図書等の購入希望図書の受付。(1階カウンターに設置している所定の用紙によりお申込みください。)
- ・延滞図書発生の電子メール通知(携帯電話への転送も可)

■ 一般県民の皆様に対するサービス

- ・閲覧、貸出サービス(2週間以内、3冊以内)
- ※ご利用にあたっては一般利用証の交付申請が必要です。(資格確認のために運転免許証・保健証等をご持参ください)
- ※学部試験期(7月末、1月末~2月中旬)は学生の利用が多くなるため一般県民の方には御利用をお断りしております。

開館時間 平日 8:40~21:00 土曜 10:00~16:00

休 館 日 日曜、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)、開学記念日(5月2日等)

図書館では専門図書や文藝関係の図書を随時購入しております。本学学生に対しては新刊図書等の購入希望申込を受け付けております。ご希望の図書があれば1階カウンターに設置している所定の用紙でお申込みください。

どういった図書が所蔵されているかについてはご家庭のインターネットPCにより本学のホームページから所蔵図書の検索もできますのでご利用ください。

なお、一般県民の方を対象に図書館利用証を交付しております。ぜひ図書館1階カウンターで手続のうえご利用くださるようご案内します。

■ 図書館利用時の注意事項

- ※入館する場合は利用証(又は学生証)が必要です。お忘れのないよう常に携帯してください。
- ※館内には飲食物の持ち込みは禁止となっております。
- ※館内では携帯電話の電源はoffにしてください。
- ※貸出図書については返却期限を厳守してください。(カウンターに返却のこと。)

● 自由講座の受講者を募集します!

外国語教育センターでは、本学学生の外国語コミュニケーション力の向上を図るため、正規の講義以外に自由講座を開講しております。

授業で習ったことをさらに深めたい方、外国事情にも興味のある方等、どなたでも受講することができます。

■ 平成17年度外国語教育センター自由講座 開講予定

講座番号	講座名	開講期間	
		前期	後期
1	英語 TOEIC®対策講座Ⅰ・Ⅱ	前期	後期
2	英語 自由講座 TOEIC®対策講座Ⅲ・Ⅳ	前期	後期
3	英語 英検対策講座Ⅰ・Ⅱ	前期	後期
4	フランス語自由会話	通年	
5	中国語自由会話	通年	

□ 受講申込期間 前期: 4月12日(火)~4月22日(金) 予定
後期: 7月予定

□ 受講料 無 料

□ 注 意

1~3の講座の受講対象は3・4年次生です。この1~3の講座について、2年生は、自由講座ではなく正規の授業となりますので、他の授業科目と同様に履修登録が必要です。

4、5の講座は全学年受講できます。